

## 博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」 中長期海外渡航支援によるブリストール大学(英国)への留学

メリー・ジェーン・アルセド 大学院生命農学研究科博士課程後期2年〈プロジェクト開発研究領域〉

動物福祉 (Animal welfare) に関する近年の研究や国際的に展開されている議論について理解するため、2013年9月より約1ヵ月間、英国ブリストール大学獣医学研究科に留学しました。現地では、講義やセミナーへの参加、フィールド訪問に加えて、博士課程の学生が実施している「動物のストレスと習性に関する非侵襲的な研究」を見学させていただきました。動物の習性や感情 (共感、感情移入) を分析する手法は、私にとって全く新しいものでした。

ここで学んだものは、殆どヨーロッパを基準とした動物福祉でしたが、現在取り組んでいるフィリピンの動物福祉に関する研究の進め方や調査方法を検討するうえで非常に有意義なものとなりました。この経験を通して、動物福祉を計測するためには多くの専門領域に跨る広い視野が必要であることに気がつかされましたし、動物福祉の重要性を再認識できました。この機会に得られた経験は、生産性と所得の向上だけでなく、消費者の高まるニーズを満たすための高品質又は安全な肉およびその他の副産物のより良い製造にもつながり得るものだと確信しました。



サイレージの品質について説明する飼料栄養士



放牧型の養豚場を視察

## 学 生 紹 介

### 非生物的ストレス耐性に関わるイネ有用遺伝子座の同定とその利用

ワイナイナ・コーネリアス・ムバティ 大学院生命農学研究科博士課程後期1年  
〈プロジェクト開発研究領域〉



JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 「テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」枠の大使館推薦国費留学生に採択されたことを非常に嬉しく思います。私の研究目標は、分子遺伝学的手法により耐冷性や乾燥ストレス耐性に関わるイネの有用遺伝子座を同定し、それをイネの品種改良に利用することです。私は修士課程でも同じく名古屋大学で研究に従事しましたが、博士課程ではさらにその知識や研究技術を高め、より実践的な研究を進めたいと希望しています。ICCAEでの研究生活は非常に充実しており、まわりの方々にも支えられ感謝の気持ちでいっぱいです。この恩に報いられるよう、留学中に多くのことを学び、将来的には得られた知識・技術を活かしてイネのストレス耐性品種を開発し、ケニアの農民の生活、ならびに食の安全保障を向上させたいと考えています。さらには、日本の方々と協力し、ケニアでのイネ品種開発センター設立という大きな夢を是非達成したいです。

**略歴** 1983年ケニア生まれ。2006年ジョモケニヤッタ農工大学卒業、2012年同大学大学院および名古屋大学大学院生命農学研究科修士課程修了、同年にジョモケニヤッタ農工大学Assistant lecturerに採用され、現在に至る。

## オープンセミナー (2013年6月~2013年11月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2013年度 第2回	2013年 7月29日	アフリカにおけるイネいもち病害に対する安定的防除体系開発に向けて	福田 善通	国際農業水産業研究センター・ 生物資源・利用領域プロジェクトリーダー
第3回	9月26日	エチオピアの農民研究グループ活動：農家取得種子の質の向上による小麦の増収	Alem Gebretsadik	メケレ大学講師 (エチオピア)
第4回	11月15日	サブサハラアフリカのための低窒素・リン耐性イネ品種の開発に向けて	Esther Gikonyo	ケニア農業研究所カベテ支所 主任研究員 (ケニア) 農学国際教育協力研究センター客員研究員